

神奈川県立生命の星・地球博物館

友の会通信

Vol.14, No.4, 通巻71号 2011.3.15 発行

目次

活動報告	1~5	わたしの選ぶ“この一冊”	8
情報クリップ	5	行事案内	9・10
身近な自然シリーズ	6・7		

◆ 活 ◆ 動 ◆ 報 ◆ 告 ◆

小仏層群巡検

2010年11月13日(土)／相模原市藤野周辺／大人22名／講師：河尻清和氏（相模原市博学芸員）、石浜佐栄子学芸員

陣馬山麓・和田集落の紅葉が始まった穏やかな日の中を、沢井川に沿って目的地へ向かいました。

和田水道施設の脇から入った崖は、神奈川県最古の「小仏層群盆堀川層」と言う露頭で、褶曲により中央部に割れ目の入った砂岩が露出していました。

そこよりやや下った沢の中や崖には、「小仏層群小伏層」の千枚岩が露出し、道路脇に捨てられていた転石に“キンクバンド”と言う屈曲面を観る事が出来ました。また沢底の岩には泥岩・安山岩・凝灰岩互層が観られ、堆積時には近くに活発な火山活動のあったことが想像出来ます。

お昼は「陣馬自然公園センター」近くの川べりで済ませ、長靴のある人は川に注ぐ小さな沢の奥で、上述のキンクバンド面を持つ千枚岩を探しました。

午後は「日野」までバス移動し、「藤ノ木ー愛川



「藤ノ木ー愛川構造線」の断層破碎帯を説明する河尻学芸員
構造線」を辿りました。その道は断層線上で、道を挟んだ左手側（道路北側）には四万十帯構成岩類の高い断層崖があり、上部に礫層が乗った破碎帯が植物の陰に続いていました。その先に、普通はボロボロになって残存する事が少ない断層破碎帯の露頭があり、これ程の規模で観られるのは珍しいとの事でした。道路の反対側（道路南側）は「名倉玄武岩類」と呼ばれる丹沢層群と愛川層群の両方の性質を持つ岩体で、今以って起源の良く分からない地層とのことです。また長靴でも渡るのが大変な右岸には、枕状溶岩らしき岩体も露出している様でした。今回の巡検では、人間の時間軸を超えた長い地球の営みに、それを解明しようとする人間の想像力と理論の成果を考えさせてくれる一日でした。（西田和子）



名・実を見事に言い当てた“千枚岩”の露頭

★子ども自然科学ひろば「よろずスタジオ」★ 「動物の足跡であそぼう」

2010年11月14日(日)／博物館3階実習実験室／102名／講師：広谷浩子学芸員 博物館標本土の相川稔さん よろずスタッフ

第5回目の“よろずスタジオ”は、広谷学芸員と博物館標本土の相川さんの絶大な協力があって実現しました。事前に動物の足型をシリコンで作っておき、自分の手とくらべながら足型をスケッチしたり、準備された解説カードを読んだりして、どの動物の



足型をスケッチ



動物の特徴をしめす足型



ボクの足型はどれ？



スタンプなかなか難しい



いろいろな足型



足型のれん

足型なのかをあてます。その後、その足型をスタンプにして紙に押してスタンプ画をつくりました。用意された足型は、哺乳類8種（アナグマ、アライグマ、ハクビシン、カモシカ、ニホンザル、ゴリラ、チンパンジー、カンガルー）と走鳥類のエミューです。動物がどんな歩き方をするのか、足跡からたどれるようにと「足跡のれん」もウサギ、タヌキ、ツキノワグマの3種分が作られました。

当日、部屋に入った子どもたちは、巨大なゴリラの手足や、アライグマの剥製に驚きます。中には怖がって足型を手にとれない子もいました。相川さんの説明を聞くとちょっと安心して触るようになります。いろんな足型から自分がスタンプする足を決めます。足の裏は凸凹なので、インクが上手くつかず、足跡が欠けて困る動物もありましたが、子どもたちはみんな、足跡の形の面白さを感じたようでした。「足跡のれん」では動物が走る時と歩く時では足跡が変わることや両足を同時に地面につける動物など、足の使い方の違いを納得したようでした。これは保護者の方にも好評でした。

“よろずスタジオ”では体感することを重んじていますが、実物に触れ、質感や大きさ、形など五感で味わえば、子どもたちは楽しんで課題に取り組むのだということを、今回も実感しました。ス
みんな来てくださーい
スタンプ遊びを楽しんだ子どもたちが、動物への興味を深めてくれたら嬉しいと思います。（赤堀千里）

~~~~~  
ぼくは、お母さんと桂吾といっしょにはくぶつかんへ行きました。

じっけんしつで、どうぶつの足あとのことをやっていた。

やってみると、スタンプとか、ゴリラの手のもけいとかがあって、とてもおもしろいと思いました。

そのあと、ぼくは、かかりの人といっしょに、ゴリラのおめんをかぶって、「こんなことをやっているのだから来て下さい」とせんでんをしに行きました。

はくぶつかんのなかを、ぐるぐるとまわり、たくさんの人に声をかけました。

さいしょははずかしかったけれど、だんだんとおもしろくなりました。

そして、こえをかけて、たくさんの人が来てくれてうれしかったです。あと、ゴリラのおめんをかぶって、たのしかったです。

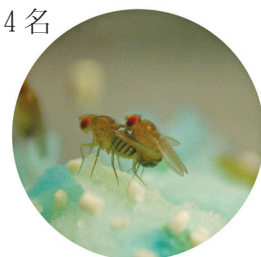
こんども、またやりに行きたいです。

（重永明輝くん 8才）

## ★「大人のための自然不思議発見講座」★ 昆虫の繁殖をめぐる不思議 ～ハサミムシを中心に～

2010年11月20日(土)／博物館3階実習実験室／8名  
／講師：上村佳孝先生（慶應義塾大学商学部専任講師）  
／荻部治紀学芸員／スタッフ4名

『ハサミムシのおやこ』（ポプラ社 2008年）、私がこの講座を企画するきっかけになった写真絵本です。著者の皆越ようせい氏は「土壌動物写真家」として有名な方です。毎日、ミミズやダンゴムシ、ササラダニ等





を地面に這うようにして観察し撮影して絵本にされています。コブハサミムシの母親は、卵をなめて、移動してカビを防いで育て、孵化した子どもたちに最初の餌として食べられて死を迎えます。ちょうどこの絵本に出会った頃、ハサミムシを研究している上村佳孝先生とのすばらしい出会いがありました。お話を伺っているうち、ハサミムシだけでなく、昆虫の繁殖について研究されていることを知り、あまり知られていない昆虫の繁殖のしくみについてお話を伺う機会を作りたいと思いました。

ハサミムシをご存知でしょうか？ お尻に立派なハサミを持っている昆虫です。先生のお話では、世



前半はハサミムシの研究のお話



上村先生がショウジョウバエの雄を入れて実験開始



コオロギとショウジョウバエの交尾実験 大成功!!

界に約2000種、日本では約30種が確認されています。母親に守られて卵からかえった幼虫は、脱皮を繰り返して大きくなります。ハサミは餌をとるため、外敵から身を守る、メスを誘うためなどに使われます。

ハサミムシの種によって、オスの生殖器官に違いがある、即ちオスの交尾器形態が分類の鍵である、そして交尾器の多様性の理解は生物多様性理解の鍵であると結ばれました。その後コブハサミムシ、ヒゲジロハサミムシを実体顕微鏡で観察しました。また、苅部学芸員が珍しいコウモリヤドリハサミムシの標本を持ってこられ観察することが出来ました。さらにショウジョウバエ、コオロギの交尾行動を実際に観察しました。

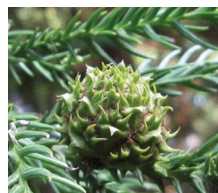
上村先生のお話や実験に加え、遠方から参加してくださった皆越氏のミミズ、ハサミムシ生態写真撮影時の苦労話など、参加者とも和やかな会話があり、予定の2時間半が楽しく、短く感じられました。

(矢野倫子)

## ★植物観察会★

### ～冬の樹木を楽しむ～

2010年11月30日(火)／入生田駅～吾性沢下流 博物館3階実習実験室／36名／講師：博物館友の会植物グループ



スギ球果



スギ雄花



スギ雌花



ヒノキ雄花



ヒノキ雌花



ヒノキ球果

住宅地を過ぎると道の左側がこんもりとした林になる。「針葉樹がありますか」の問いかけに、木々の樹皮を見る。ヒノキはスギより粗く裂けていて判別が出来る。

手の届く所にモミがある。枝が白く、葉は白っぽい緑色で先端が2つに裂けて針状。

次に現れたのが、カヤとイヌガヤ。葉に触れると、カヤは痛いのですがすぐ区別がつく。両方とも2列の気孔帯があるが、幅が広く白く目立つ方がイヌガヤである。

坂を上りきり振り返ると、先の尖った円錐状樹形のスギが多く目立つ。ヒノキは先端が丸く枝がまばらで、樹冠が透けてやさしい感じである。スギの葉は細い鎌型でらせん状に互生し、雄花も枝にらせん状に着いている。スギの枝は雄花が目立つが、その中で雌花を探す。今年と去年の球果も存在。

ヒノキとサワラの葉は共に十字対生であるが、ヒノキは気孔帯がY字形、球果が1cmであるのに対し、サワラの葉の表面はザラつき先端が尖り、気孔帯はX字形、球果は0.5cmなどの違いを観察。

午後は館内で裸子植物の説明の後、アカマツ、スギ、ヒノキ、サワラをルーペで観察。種子を取り出す。ヒノキの小さな種子にも翼がある。球果を分解、観察。

\* 針葉樹は広葉樹より気孔帯と葉の総面積が広いので、広葉樹より光合成が盛んに行われ成長が早く、二酸化炭素の吸収量も多いのではと見て取った。



種子の比較 左：ヒノキ 中：スギ 右：アカマツ



担当者手書きの裸子植物球果の資料

\* 今まで注意して見ていなかった針葉樹をじっくり観察、ヒノキ、サワラの葉の十字対生そして果鱗などのことも知り充実した時間だった。また用意された資料は季節を追った明快な素晴らしいものだった。(和田美乃)

#### ★第94回サロン・ド・小田原★

### 『日本最初の植物同好会、横浜植物会の果たした役割』



講演中の田中学芸員

2010年12月18日(土)／博物館  
講義室レストラン・フォーレ  
／第1部講演会38名、第2  
部交流会25名／話題提供者：  
田中徳久学芸員

12月11日から始まった企画展『日本最初の植物同好会』に関連して、田中学芸員がその準備中に新たにわかったことなどを含めて軽妙な話術で約1時間お話しくださいました。

横浜植物会は1909年(明治42)、有名な植物学者、牧野富太郎氏を講師に発足し、以来100年余、県内中心に、全国各地、また外国でも観察会を行っているそうです。

牧野氏との関係は一方的に教えを乞うだけでなく、牧野氏も植物会の会員から植物の情報を得たり、案内をしてもらったりと良好な give and take の関係であったとか。田中学芸員いわく現在の博物館と友

の会の間のようなそうです。又、横浜植物会発起人の一人、松野重太郎氏から牧野氏が金銭的援助を受けて、お陰で年を越すことができると書いてあるお礼の手紙など面白い資料も紹介されました。

牧野氏は四国の裕福な酒屋の生まれでしたが、毎月非常に大量の本を買い込み金銭的に余裕がなかったという話を思い出しました。

又横浜植物会会員の採集した標本や、会員の案内で学者が採集した植物標本には会員の名前がついているものも数多く、たとえばトウゴクミツバツツジ(Rhododendron wadanum)は発起人の一人、和田治平氏の名前がついています。

横浜植物会は、神奈川県植物相の解明にも寄与していて、1933年(昭和8)に『神奈川県植物目録』が出版されましたが、これには会員の標本の蓄積を基にしており、現在県単位で出ている「〇〇県植物誌」のはしりであるそうです。更に1933年には神奈川県植物誌調査会が横浜植物会の役員を中心に立ち上げられ、現在に至っているとのこと。

また、横浜植物会の担ってきた役割の一つが「人を育てる」ということで、現に田中学芸員も学生時代に恩師から植物を勉強する場として横浜植物会を紹介されたそうです。現在会員数250～300名、観察会や勉強会に参加して自然に親しみ自然科学の面白さを満喫しているそうです。

創立当時の採集会の写真は面白く、何と殆ど全員がスーツを着てネクタイを締めていました。現在の観察会では考えられない服装です。多分当時、植物採集というのは趣味として高級(趣味に高級とか低級とかあるのか、という問題は別にして)だったのでしょうか。田中学芸員の話にも横浜植物会に入会するには会員の紹介が必要であったというのがありました。

講演の後、いつものように博物館内レストランに場所を移し交流会が開かれました。今回は会員の方が、きのこ汁を作ってきてくださいました。これをきっかけに、きのこ談義にも花が咲き、大鍋2杯あったきのこ汁はすっかりなくなってしまふほど好評でした。そして7時40分解散となりました。

(小久保恭子)





★子ども自然科学ひろば「よろずスタジオ」★

「どんぐりであそぼ！」

2011年1月9日(日)／博物館講義室東側／76名／よろずスタジオ担当者

今回は「どんぐりであそぼ！」という呼びかけで行いました。入り口の催し案内を見て参加した小学生、また、場内アナウンスの呼びかけで来られた親子づれで、準備していたテーブルもあつという間に埋まり、子どもたちの賑やかな声が響き、一緒に参加されたお父さん、お母さん、おばあちゃんまでも一緒に作品を作っておられました。そして、コマ、お人形、ブローチ、ペンダント、笛など思いおみの作品が出来上がりました。中には床でコマ回しを競っている子どもたちもいました。使いたいドングリや殻斗を選ぶ中で、子どもたちはいろいろなドングリ、またそれらについていたであろう殻斗の違いにも気づいたことでしょう。(佐々木あや子)

<参加者した子どもたちの感想>

■コマを作った小5(男):コマを回すのに工夫が必要、強すぎても弱すぎてもだめだということがわかった。

熊やウサギの人形を作った小3と4歳の姉妹:ドングリは今まで拾うだけで、こんなにいろいろなものが作れるとは思っていなかった。いろいろ作って楽しかった。

■コマを作った小5(男):今日は主にコマを作った。コマがうまく回るかどうかはドングリの形にもよると思う。下が重い方が良く回ると思う。

■三つ子ドングリを作った小5(女):帽子を下につけるのがむずかしかったが、すごくかわいく出来たと思う。

■笛を作った小1(男):ドングリの中身を出すのがちょっと大変でパパにも手伝ってもらった。作った笛の音を出すのも大変だったが、



子どもたちの想像力はすごい!



こんな作品も「どんぐり3兄弟」



手作りペンダントをつけてVサイン



会場前の看板



お友達と一緒に作品作り



スタッフさんにも手伝っていただいて・・・



出来上がった作品を前にして

だんだん良い音色が出るようになった。

■目時家の感想

【兄の感想】ここで弟と色々な物を作りました。僕はコマを作り、弟は人物などを作りました。同じテーブルにいた子はとてもコマ作りがうまく、一緒に戦ったりしました。普段はやらない良い体験ができて、交流もできてよかったなと思いました。

【弟の感想】僕は、どんぐりで作ったうさぎをみんなにほめてもらえて嬉しかった。また行きたいな～

【親の感想】どんぐり1つがアイデア次第でたくさんの遊び道具になる事に興味深く子どもと一緒に作成しました。しかし綺麗には出来ても子どものアイデアにはかなわず…係りの方達が温かく、懸命に手助けをして下さり、つい居心地良く長く居座ってしまいました。お金をかけた物を与えるよりも子どもは飽きずに、楽しそうでした。親として簡単な物を与えすぎている事に反省させられる時間でもありました。第三日曜日にまた横浜から行きたいと思います。帰りは温泉。

＜情報クリップ＞

会員数 475 名 平成 23 年 2 月 16 日現在  
(正会員 473 名、賛助会員 2 名)

●会員更新の手続きについて

皆様、会員更新の手続きはお済ですか。

2 月に振込用紙を同封しております。再度確認の上、手続きをお願いいたします。

## 博物館周辺の身近な自然シリーズ (その26)

### 湯河原町の柱状節理の滝探訪記

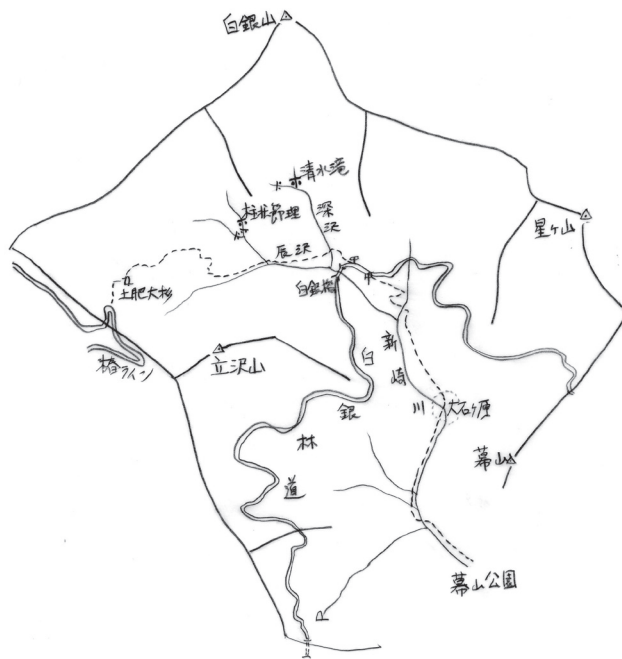
学芸員 勝山 輝男

2011年2月7日、学芸員の山下さん、笠間さん、大島さん、企画普及課の秋元さん、片野さん、木村さん、管理課の小野さん、温地研の3名、行政センターの3名の総勢14名で湯河原町新崎川左俣中尾沢の柱状節理の滝を見に行きました。写真のような立派な滝ですが、知る人ぞ知る幻の滝です。

私がこの滝のことを知ったのは10年以上も前で、湯河原町の文化財委員会で、町の文化財の掘り起こし作業をしていたときです。そのときは、委員会のメンバーが見に行き、立派な柱状節理が見られるという話を聞きました。博物館の開館とほぼ同時に湯河原に移住し、湯河原の沢のおもしろそうな所はおおかた登りました。新崎川は右俣（深沢）も左



柱状節理の滝上



柱状節理の滝地図

俣（辰沢）も沢通しに登りました。右俣には清水の滝という立派な滝がありました。また、左俣の中尾沢も二股の滝までは登りましたが、柱状節理のある滝は記憶にありませんでした。探しに行ってみようと思いつつ、時間がたってしまいました。箱根ジオパーク構想が持ち上がると、湯河原町のジオサイトの候補ということで、柱状節理の滝がにわかに脚光を浴びるようになりました。そこで、懸案の柱状節理の滝を見に行こうということになりました。

白銀林道が新崎川を横切る白銀橋の少し東よりに、土肥大杉に登るハイキングコースの入り口があります。標高は500m位。このハイキングコースが滝への登り口になります。ここまでは、幕山公園から大石ヶ原を経て、歩いて1時間～1時間半ほどかかります。土肥大杉は、源頼朝が石橋の合戦で負け、湯河原山中を敗走したときに隠れたと伝えられるスギの大木で、今は切り株も朽ち果てています。このハイキングコースは大杉の少し上で県道仙石原湯河原線（椿ライン）に合流します。西方に見える立沢山（標高905m）の北東尾根には、今でもスギの大木があり、「大杉の茂り」と呼ばれています。急峻ですが、10年ほど前に「頼朝の木」「次郎実平の木」など、大杉8本を1時間半ほどで巡る道が開かれています。

ハイキングコースは新崎川に沿って東側の山腹をまき気味に登り、10分ほどで水量の豊富な右俣（深



沢)を飛び石伝いに渡ります。左俣(辰沢)の左岸(上流から下流に向かって左側)につけられた道を登ります。このあたりは、ニホンザルを山へ帰すために、えさになる広葉樹を植えようという事業が行われた所です。事業の成否はわかりませんが、植樹されたヤマザクラなどが目につきました。やがてヒノキの植林地を抜けると、ハイキングコースは流水のある幅広い沢を横切ります。これが中尾沢です。ここまで、白銀林道の登り口から30～40分です。椿ラインの土肥大杉入口から下ってくることも可能で、1時間ほどで降りてこられると思います。幕山公園から歩くのとは比べると、その方が楽かもしれません。

柱状節理の滝へは、道から外れて、石ころがごろごろした中尾沢を登ります。藪こぎというほどではありませんが、モミジイチゴなどの刺のある灌木があり、不用意につかむとトゲが刺さります。足元の石ころも浮いていて、踏み固められた道のありがたさがよくわかります。

標高差100m、20分位登ると、沢は二股になり、右俣、左俣ともに滝がかかっています。水量は右俣の方がやや多いようです。右俣の滝の上に柱状節理の滝があり、河原の高みに登ると、上部がわずかに見えます。以前(10年ほど前)はここまで来て引き返したようです。滝の左側の樹木が繁茂した急斜面にザイルを固定して登りました。正面に柱状節理の滝が水流で濡れて、黒く光っていました。

しばらく、滝の雄姿を眺め、記念撮影をとったり、昼食を食べたりしました。昼食後、滝の上に登ってみました。左側から登ることができますが、落ち口へ出るところは高度感があり、慣れない人はちょっと怖かったと思います。固定したザイルを回収してこなかったことを反省しました。滝の上は緩やかなナメになっています。落ち口には六角形の割れ目があり、垂直に落ちて

います。滝壺を見降ろすと、ゾクゾクっとします。下からみたのとは違った角度で柱状節理を見ることができました。十分に堪能した後、下りにかかりましたが、ザイルがないので、慎重に下ってもらいました。出合いの滝は登ったときにザイルを固定したので、こちらは簡単に下ることができました。

ハイキングコースにもどり、まだ、時間に余裕があったので、右俣(深沢)の清水の滝に寄ることにしました。右俣を渡ったところから、上流に向かって踏み跡に入ります。つる植物が繁茂してトンネルのようになった所をくぐり抜けていきます。1時間ほどで二股になり、左俣にのみ水流があります。水流に沿って左俣に入ると放棄ワサビ田があります。一番下のワサビ田をトラバース気味に登っていくと、右奥に清水の滝が見えます。清水の滝は藤木川の不動の滝、五段の滝、白雲の滝、蛇態の滝とともに、湯河原五滝の一つに数えられる滝ですが、ワサビ田が放棄されてからは、道が荒れてしまい、柱状節理の滝よりも行き難い滝になってしまいました。

柱状節理の滝へは一般向きのコースとはいえ、道のない山を歩ける人しか行けないところです。今回は、容易に行けないという意味で、「身近ではない自然」の紹介になってしまいました。見ごたえのある滝なので、将来、ジオサイトとして道が開かれ、誰にでも行けるようになることを願っています。



柱状節理の滝



わたしの選ぶ“この一冊”



## 『ダーウィンのミミズの研究』

新妻昭夫 著 杉田比呂美 絵  
福音館書店（月刊『たぐさんのふしぎ』

1996年6月号）

学芸員 大西 亘

自然史好きのみなさんなら、チャールズ・ダーウィンの名前を聞いてワクワクする方も多いのではないのでしょうか。かくいう私もその一人です。ダーウィンの著書と言えば、平田学芸員から2号前の「わたしの選ぶこの一冊」で紹介されていた『ビーグル号航海記』や、ダーウィンの進化論として有名な『種の起源』が真っ先に思い浮かぶかもしれません。『種の起源』に書かれた自然選択説は、現在あらゆる生物学に欠かせない考え方として受け入れられています。一方でダーウィンは、さまざまな生物を対象としたさまざまな研究を行っており、ミミズやハトやフジツボなど、私たちが目にしたことのある生きものについても深く調べています。そのため現在でも生物学の論文には、「ダーウィンが調べた…」のような表現から始まるものが数多くあり、私もいつかそんな書き出しを使ってみたいと思っています。

さて、今回ご紹介する『ダーウィンのミミズの研

究』は、ダーウィンが亡くなる半年前に書きあげたという、「The Formation of Vegetable Mould through the Action of Worms, with Observations on their Habits（ミミズの作用による肥沃土の形成とミミズの習性の観察、以下「ミミズ本」）」の内容をこどもでも大人でも楽しめるように紹介した本です。ダーウィン関連書籍は数多く出回っていますが、中でもダーウィンの研究を知る入門書として最適な一冊だと思います。著者は『ビーグル号航海記』が好きな動物学者で、この本には「ミミズ本」との出会いを出発点に、「ミミズ本」のエッセンスをわかりやすく紹介し、ダーウィンの実験のその後を調査した顛末が親しみやすい絵とともに書かれています。ダーウィンがミミズについて調べた色々なことやミミズ研究にまつわるエピソードが、そここちにちりばめられており、内容は非常にシンプルですが、ダーウィンがいかに熱心にミミズの謎を調べていたかを身近に感じられる構成です。ダーウィンが彼のおじのジョサイア・ウェッジウッド（2世、陶磁器メーカーとして有名な“ウェッジウッド”の2代目経営者）の言葉に触発されて、彼とともに身近なミミズの作用を調べたエピソードも描かれています。これを読んで、ダーウィン＆船旅＆お茶＆焼き物好きの私は、ビーグル号の足跡をたどる船旅に出て、ダーウィンの著作を読みながらウェッジウッドの茶器でお茶をして、ダーウィンの見たこと感じたことに思いをはせるのが、この世で最高のぜいたくだと思うようになりました。

『ダーウィンのミミズの研究』は、たぐさんのふしぎ傑作選として先ごろ再版されたほか、県内の多くの公立図書館や博物館ライブラリーのこどもの本のコーナーにもありますので、ぜひ手に取ってみてください。

### 〈関連する本〉

- ・チャールズ・ダーウィン 著 渡辺弘之 訳『ミミズと土』平凡社（「ミミズ本」（1881年刊）の邦訳版）1994年。
- ・皆越ようせい『ミミズのふしぎ』ポプラ社、2004年。

（皆越さんは、土壌動物に関する著作が数多くある自然写真家で、2011年7月の友の会主催講座「土の中の虫ウォッチング」に講師としてお越しいただく予定だそうです。）



## 行事案内

### ◆ 友の会 総会イベント

#### シンポジウム「より良い箱根ジオパークを考える！」

友の会は神奈川県西部の一市三町（小田原市・箱根町・真鶴町・湯河原町）で進めている「箱根ジオパーク構想」の趣旨に賛同し、その推進構成団体である博物館の活動を支援するために「より良い箱根ジオパークを考える！」のテーマでシンポジウムを開催します。

会員以外の一般参加者も歓迎ですのでご友人などお誘いのうえでご参加くださるようお願い致します。

日 時：4月3日(日)14:30～16:30(開場14:00～)

場 所：博物館ミュージアムシアター

#### シンポジウム内容

1. 講演「箱根ジオパーク構想の概要と  
ジオパークの理念」

講師：平田大二（当博物館学芸部長）

2. パネルディスカッション

「より良い箱根ジオパークを考える」

進行：佐藤昭男（友の会）

パネリスト

袴田和夫（元箱根町立大涌谷自然科学館館長）

勝山輝男（当博物館学芸員）

鈴木康弘（箱根町立郷土資料館館長）

石原和美（環境省パークボランティア）

### ◆ 八田先生講座 樹木観察「花から果実へ」

（会員以外の方も参加可）

日 時：4月10日(日) 13:00～16:00

場 所：横浜市立こども植物園(横浜市南区六ツ川)

集 合：こども植物園研修室 13:00

交 通：JR保土ヶ谷駅東口からバス、児童遊園地  
入り口下車、5分

講 師：八田洋章先生（樹形研究会代表）

対 象：大人／25名（抽選）、オープン

参加費：1,100円／人（謝礼、資料、保険代など）

持ち物：筆記用具、ルーペ、ピンセット

締切り：3月28日(月) 必着

連絡先：深山 045-821-5184

### ◆ 子ども自然科学ひろば「よろずスタジオ」

場 所：博物館1階講義室（東）

申込み：不要、無料

新年度の実施日は毎月第3日曜日（7・8・3月を

除き、9回行います）です。今年から博物館との共同事業に位置づけられました。学芸員の頼もしいバックアップが得られ、博物館で行うにふさわしい内容の濃いものができると思います。皆さん、お子さん共々是非一度体験にいらしてください。

\*よろずスタジオでやってみたいアイデア、協力スタッフはいつでも募集中です。お声を掛けてください。

連絡先：080-1088-9269 赤堀

#### ○「大昔の生き物、アンモナイト」

日 時：4月17日(日) 13:00～15:00

アンモナイトのからはどんな模様？

化石になった生き物の色や模様はわかりません。

だから色と模様を自分で作ってみよう。

#### ○「葉っぱであそぼ！」

日 時：5月15日(日) 13:00～15:00

葉っぱスタンプではがきを作ろう！

#### ○「貝トランプで遊ぼう」

日 時：6月19日(日) 13:00～15:00

やってみないとわからないこの面白さ！

寄ってらっしゃい、見てらっしゃい！

### ◆ 「中央火口丘から箱根火山を俯瞰する」

箱根後期中央火口丘を代表する駒ヶ岳、神山などの山稜から箱根火山地形の全景を俯瞰し、その形成過程を探る。

日 時：4月23日(土) 10:00～16:00

場 所：箱根火山（中央火口丘）周辺

集 合：[箱根園] 駒ヶ岳ロープウェイ乗り場  
10:00頃

解散場所：大涌谷バス停

講 師：蛭子貞二（友の会）、山下浩之学芸員

対 象：大人／30名（抽選）

参加費：150円／人

注意事項：駒ヶ岳から神山、大涌谷までの登山道を歩く距離の有るルートで、やや健脚者向けです。

締切り：4月12日(火) 必着 \*チラシ無し

連絡先：中村（良）0463-83-4035

### ◆ 植物観察会「スマレをたずねて」

日 時：4月26日(火) 8:15～15:00頃

場 所：箱根仙石原自然探勝歩道（雨天中止）

集 合：箱根登山鉄道 箱根湯本駅改札口8:15

講 師：勝山輝男学芸員

対 象：大人／30名（抽選）

参加費：1,300円（保険、資料代、往路タクシー代含む）

持ち物：昼食、ループ、筆記用具等

締切り：4月13日(水) 必着

連絡先：寺井 0466 - 43 - 6446 (夜間)

\*今回は多少長めのコースで、緩やかなアップダウンがあります。(約6km)

\*詳しくは返信葉書にてお知らせします。

#### ◆ 植物観察会「信濃路自然歩道を歩く」

オニヒョウタンボクとサクラソウ群落を訪ねて

日 時：5月31日(火)～6月1日(水)

場 所：長野県軽井沢

宿 泊：小諸グランドキャッスルホテル(長野県小諸市)

集 合：横浜駅西口 7:00

解散場所：横浜駅西口 20:00頃

講 師：勝山輝男学芸員

対 象：大人／30名(抽選)

参加費：19,000円位(参加人数により変更あり)

締切り：4月27日(水) 必着

申込み：往復はがきに必要な事項(3月5日送付のチラシ参照)を記入してお申し込みください。

連絡先：佐々木 045 - 843 - 4993

#### ◆ 第96回サロンド・小田原

「深海に生息する背骨のない生きものたちの不思議な生活」

第95回のサロン・ド・小田原では、大西亘学芸員から、さまざまな海岸の姿や、海岸の環境、植物を中心とした海岸生態系を紹介してもらいました。

今回は、水際から水の中、しかもどうせならわたしたちが直接見に行くことがほぼ不可能な深海に視点を移し、そこに生息する生きものたちにフォーカスをあててみようと思います。

深海とはどのような環境をいうのか、深海は浅海とどこが違っているのか、そこに生息する背骨のない生きものたちはどのような姿をして、どこに住み、何を食べ、どのような毎日を送っているのか。不思議なことはたくさんありますが、そのほとんどはまだまだわかっていないことだらけです。

海洋調査船による調査航海に参加して得られた資料や、その資料を分析した結果からほんの少しずつわかってきた、不思議な姿の生きものたちの不思議な生活をご覧いただきたいと思います。

話題提供者：佐藤武宏学芸員

日 時：5月28日(土) 受付16:20～

場 所：県立生命の星・地球博物館1階講義室

講 演：17:30～18:30

交流会：18:40～20:00(3階レストラン・フォーレ)

参加費：講演のみの参加は無料です。

交流会参加費は、大人1,000円

申込み：講演会のみ場合は、申込み不要です。

交流会に参加される方はFAXまたははがきで友の会事務局までお申込みください。

宛て先：友の会事務局宛 FAX:0465-23-8846

問合せ：田口

特 記：詳細は友の会ブログでご案内します。

#### ◆ 土の中の虫ウオッチング

～絵本作家 皆越ようせいさんと語ろう～

『おちばのしたをのぞいてみたら』『ダンゴムシみつけたよ』(ポプラ社)など土の中の虫の絵本を書かれている写真家で絵本作家の皆越ようせいさんを講師に迎えて、土の中の虫の観察のお話を聞きます。

日 時：7月9日(土) 10:00～15:30

場 所：午前 博物館周辺

午後 博物館3階実習実験室

講 師：皆越ようせい氏

対 象：子どもから大人まで／30名

参加費：500円／人

締切り：6月24日(金) 必着

連絡先：矢野 055 - 987 - 0228 (夜間)

#### 博物館友の会主催各行事の参加申し込みについて

往復はがきに必要な事項を記入して、友の会事務局までお送りください。FAXや電子メールでは受け付けませんので、ご注意ください。

行事名／開催日／参加者全員の氏名・年令(学年)／会員番号／代表者の住所・電話番号／指定事項、ご不明な点は、友の会事務局へお問合せください。

#### 注意！

★参加費は1名分の金額で、内訳は資料代、傷害保険料です。それ以外のものは特記事項に記載があります。バスなど予約が必要な場合、参加者個々に材料を購入する場合などの講座参加確定後のキャンセルは、代わりの方をご紹介いただくか、参加費を負担していただく場合があります。

★オープンの行事は会員外の方も参加できます。

★小学生以下の参加は保護者同伴が原則です。

★チラシの発行されない行事もありますので、直接(連絡先)へお問い合わせください。

★持ち物など詳細は返信はがきに記載されます。

「友の会通信」第72号は、2011年6月15日発行予定です。

発行：神奈川県立生命の星・地球博物館友の会

Vol.14, No.4, 通巻71号 2011.3.15 発行

編集：友の会広報部

〒250-0031 神奈川県小田原市入生田 499

TEL: 0465-21-1515 FAX: 0465-23-8846